

令和元年度 事業報告書

自 平成31年4月 1日

至 令和 2年3月31日

東京都千代田区丸の内一丁目6番1号

公益財団法人 日立財団

目 次
(令和元年度事業報告書)

はじめに	1
1. 学術・科学技術の振興	1
1.1 倉田奨励金	1
1.2 日立財団科学技術セミナー	6
1.3 日立スカラシップ事業	6
(1) 博士課程留学支援プログラム	
(2) リサーチサポートプログラム	
1.4 日立財団アジアイノベーションアワード	6
2. 人づくり	8
2.1 理工系人財育成支援事業	8
(1) 日立みらいイノベータープログラム(小学生向け)	8
(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け)	8
2.2 大好き いばらき作文コンクール	9
2.3 日立市少年少女スポーツ育成大会事業	9
3. 多文化共生社会の構築	9
3.1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム	9
4. 処務の概要	10

はじめに

令和元年度は平成27年4月に5財団が統合され5年目を迎えた。時代に応じた改革を加速させ、財団事業の確立を図るため、主要事業の追加見直しおよび新設を行い、持続可能な社会の構築や国民生活の向上、国際社会へのさらなる貢献をめざしている。

倉田奨励金は、エネルギー・環境、都市・交通、健康・医療分野における社会課題の解決に資する研究を支援する自然科学・工学研究部門において、ニーズに応じて研究期間が2年におよぶテーマにも門戸を広げた。一方、文理融合関連分野を深掘りすべく、高度科学技術社会の諸問題に、広くクリティカルな視線を注ぎながら今後のあるべき社会を構想する、人文・社会科学研究部門を新設した。

また、アジアへの貢献事業は全面的に衣替えし、地域の社会課題解決を科学技術イノベーションを通じて自助努力する試みを後押しする、他に類をみない表彰制度である、日立財団アジアイノベーションアワードを新設した。

さらに、新たな事業の柱として、多文化共生社会の構築実現を掲げた事業を発足させ、初年度は広く一般市民に向けて意識改革を促す啓発活動に取り組み、シンポジウムを東京都と茨城県にて実施した。

1. 学術・科学技術の振興

1.1 倉田奨励金

本事業は平成30年度までに、1,385件の研究テーマに総額約23億円を贈呈し、国内の研究活動の支援を行ってきた。また、5財団統合を機に行った見直しで、助成対象を社会課題解決に資する研究とし、それまでの自然科学研究に加え文理融合分野の研究支援も導入、先駆的な助成事業として認知されてきた。

令和元年度は、創設当時から大きく変化した科学技術社会のありよう、その中で新しく生まれた社会課題の顕在化を鑑み、高度科学技術社会に通底するさまざまな問題を読み解きこれからのあるべき社会を構想する、人文・社会科学研究部門の助成を新たに立ち上げた。さらに、自然科学・工学研究部門には、継続的な支援を必要とする、将来有望な研究を対象とした、2年間の助成を新たに追加した。助成金の交付の内容は下記の通りである。

(1) 助成対象者

日本国内の研究機関(博士後期課程を有する研究科、同研究科に係る学部、または文部科学省科学研究費補助金「科研費」を申請することができる法人)に所属する研究者。ただし、国籍は問わない。大学院生の応募可。

(2) 助成部門

① 自然科学・工学研究部門

国際的な視野で社会課題の解決に資する、独創的、先駆的な研究。分野は以下の3つとし、自然科学・工学研究の観点による文理融合研究も対象とする。

I. エネルギー・環境 II. 都市・交通 III. 健康・医療

② 人文・社会科学研究部門

科学技術の進歩がもたらす社会の変容、その背景に潜む複合的な諸問題を人文・社会科学の視点(社会、文化、文学、歴史、哲学、倫理、法律、経済等)から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探求する研究。

(3) 助成金額:()は研究期間

① 自然科学・工学研究部門

(1年)100万円程度/1件

(2年)300万円程度/1件

② 人文・社会科学研究部門

(1年)80万円~100万円程度/1件

(4) 募集方法

募集は公募とし、案内を当財団ホームページに掲載し募集した。

募集期間は令和元年7月1日~9月13日とした。

(5) 選考委員(所属、役職:選考委員会当時)

9名の選考委員による審査を行い、選考委員会にて受領者を選定した。

・選考委員長

大西 隆 豊橋技術科学大学 学長

・選考委員

小豆畑 茂 日立製作所名誉フェロー

神里 達博 千葉大学国際教養学部教授

佐久間一郎 東京大学大学院工学系研究科教授

城山 英明 東京大学公共政策大学院教授

鈴木 淳 東京大学大学院人文社会系研究科教授

須田 義大 東京大学生産技術研究所教授

長棟 輝行 総合研究奨励会コーディネーター、東京大学名誉教授

矢部 彰 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)ユニット長

(6) 助成金の贈呈

大学:91校、工業高等専門学校:1校、研究機構:11機関から計265件の応募があり、選考委員会で慎重かつ厳正に審査を行った結果、自然科学・工学研究部門31件(エネルギー・環境:11件、都市・交通:5件、健康・医療:15件)、人文・社会科学研究部門13件の計44件に対し、合計5,000万円を交付することを決定した。なお令和2年3月3日に経団連会館において開催を予定していた贈呈式は、新型コロナウイルス感染症の拡大に鑑み中止とし、受領者へは郵送にて贈呈書を送付した。

令和元年度採択研究テーマ一覧(44件)

部門 分野	奨励金 No.	研究テーマ	代表研究者 (敬称略)	所属	役職	決定金額 (円)
自然科学・工学研究部門 (エネルギー・環境分野)	1386	エーヤワディーデルタにおける地下水ヒ素汚染マッピング	アグサ テツロウ 阿草 哲郎	熊本県立 大学	准教授	1,000,000
	1387	バイオ分子による CdS 光触媒の水素製造増大及び光腐食防止の機構解明	アリマ 有馬ボシールアハ ンマド	山形大学	准教授	1,000,000
	1388	SFG/EQCM 同時計測による電解液/電極界面の電気二重層・SEI 被膜の in situ 測定手法の確立	イワハシ タカシ 岩橋 崇	東京工業 大学	助教	1,000,000
	1389	機械学習を援用した摩擦抵抗低減デバイスの動的制御	オカバヤシ キエ 岡林 希依	大阪大学	助教	1,000,000
	1390	量子論に基づくシミュレーションによる高移動度 SiC-MOS 界面とその創製プロセスの設計	オノ トモヤ 小野 倫也	神戸大学	教授	1,000,000
	1391	Exploration of Pb-Free Halide Perovskite Materials for Solar Cell Applications	カタカ ビ デュラハ DHRUBA B. KHADKA	物質・材 料研究機 構	ICYS 研究員	1,000,000
	1392	高次フラレンとの π 相互作用を利用したハロゲン化芳香族類の精密分離・定量	クボ タクヤ 久保 拓也	京都大学	准教授	1,000,000
	1393	計算科学的手法を用いたネオジム焼結磁石界面近傍の副相に関する微視的研究	タテツ ヨシトミ 立津 慶幸	名桜大学	准教授	1,000,000
	1394	全固体エネルギーデバイス用イオン伝導材料における界面分極の定量評価手法の開発	ツチャ タカシ 土屋 敬志	物質・材 料研究機 構	主任 研究員	1,000,000
	1395	高効率太陽電池開発のための超短パルスレーザー過渡光電流分光計測システムの開発	テラモト タカヒロ 寺本 高啓	大阪大学	特任 研究員	1,000,000
1396	無機半導体光触媒反応と生体触媒反応とを組み合わせた光バイオ水素生産系の構築	ホンダ ユウキ 本田 裕樹	奈良女子 大学	助教	1,000,000	
同部門 (都市・交通分野)	1397	歩行者の安全・安心と交通円滑性を満たす自動運転車両の挙動要件に関する研究	イリョウ ミホ 井料 美帆	名古屋大 学	准教授	1,000,000
	1398	逆浸透膜のナノスケールレベルの欠陥を簡易に修復する『ナノスケールバンドエイド』の開発	スズキ タスマ 鈴木 祐麻	山口大学 大学院	准教授	3,000,000
	1399	生物多様性・生態系サービスの保全に最適な都市開発戦略の探索：大規模フィールド調査およびシミュレーションによる検証	ソガ マサシ 曾我 昌史	東京大学	助教	1,000,000

	1400	津波伝播・遡上計算用地形データ作成ツールの開発～世界津波防災力の向上に向けて～	チカサダ ナオタカ 近貞 直孝	防災科学技術研究所	主任 研究員	3,000,000
	1401	安全安心な自律飛行ドローンシステムを構築するための車両間無線通信性能の発展に関する研究	ヒライ タケシ 平井 健士	名古屋大学	博士後期課程 2年	1,000,000
同部門 (健康・医療分野)	1402	KRAS 遺伝子変異を持つ癌に対する PRMT5 を介した新しい癌幹細胞維持機構を標的とした癌治療法の確立	アベ ヨシノリ 阿部 芳憲	日本医科大学	助教	850,000
	1403	ICT を利用した月経前症候群の重症度に伴う労働生産性損失の推計～働く女性の健康経営に向けて～	イケダ ユミエ 池田 裕美枝	京都大学	医学博士課程 M.D.	1,000,000
	1404	ゲノム解析に基づく子宮腺筋症・内膜症の個別化治療法の開発に向けた分子基盤の構築	イノウエ サトシ 井上 聡	国立がん研究センター研究所	特任研究員	1,000,000
	1405	CRISPR/Cas9 技術を応用した皮膚癌における新規エピゲノム編集の開発	オウダ リョウタ 應田 涼太	北海道大学	助教	2,500,000
	1406	自閉症的特性をもつ「気になる子ども」の不安軽減に役立つインテロセプションを促進するための VR の開発	オオコウチ アヤコ 大河内 彩子	熊本大学	教授	1,000,000
	1407	新規の薬物依存治療法確立を目指したペプチド GPCR のアレクチンバイアスリガンド開発	カトウ ヒデアキ 加藤 英明	東京大学	准教授	2,650,000
	1408	末梢からのプリオン感染リスクの網羅的解析	コバヤシ アツシ 小林 篤史	北海道大学	准教授	1,000,000
	1409	選択的スプライシングバリエント制御による治療抵抗性乳がん治療法の確立	サナダ フミヒロ 真田 文博	大阪大学	寄附講座准教授	1,000,000
	1410	新眼科医療機器 SmartEyeCamera を使用した、眼科疾患の早期発見と早期診断の実現	シミズ エイスケ 清水 映輔	慶應義塾大学医学部	特任助教	1,000,000
	1411	17 型ヘルパー T 細胞を標的とした新規粘膜ワクチンアジュバントの開発	タチバナ マサシ 立花 雅史	大阪大学	特任准教授	1,000,000
	1412	光学的手法による定量機械物性顕微鏡の開発に関する基礎検討	タムラ カズキ 田村 和輝	浜松医科大学	助教	980,000
	1413	精神神経疾患の発症に関わる小脳神経回路基盤	ツツミ シンイチロウ 堤 新一郎	東京大学	助教	1,000,000
	1414	タンパク質性 Ras 阻害剤 (PRI-73) の構造最適化と癌治療への応用	ホンダ リョウ 本田 諒	岐阜大学	助教	1,000,000

	1415	チロシンリン酸化に着目した敗血症の病態解明と新規治療法の開発	マツモト ヨシノリ 松本 佳則	岡山大学	助教	1,000,000
	1416	高精度遠隔治療を実現する次世代内視鏡 Vision の開発	ワカヤマ トシタカ 若山 俊隆	埼玉医科大学	教授	1,000,000
人文・社会科学 研究部門	1417	IoT の周縁で；変容の東南アジア庶民の足（ジャカルタとプノンペン）を例として）	アズマ ヨシフミ 東 佳史	立命館大学	教授	1,000,000
	1418	工業高専での哲学対話によるシチズンシップ教育を目的とした学生ファシリテーターの養成	オガワ タイジ 小川 泰治	宇部工業高等専門学校	講師	1,000,000
	1419	ブレイン・マシン・インターフェース（BMI）の倫理的課題：人間はどこまでサイボーグになれるのか？	オリト ヨウコ 折戸 洋子	愛媛大学	准教授	750,000
	1420	「巨大テクノロジー企業」から捜査機関への任意の情報提供の憲法上の課題	コニシ ヨウコ 小西 葉子	一橋大学	博士後期課程 3年	1,000,000
	1421	高度科学技術社会における「安全と権利自由の両立」－治安機関に対する民主的統制制度の研究	コバヤシ ヨシキ 小林 良樹	明治大学	特任教授	1,000,000
	1422	ビッグサイエンスと地方自治体の関係についての事例間比較研究	サダマツ アツシ 定松 淳	東京大学	特任准教授	1,000,000
	1423	現代科学技術の歴史的構造の我が国における様相の解明	サトウ ヤスシ 佐藤 靖	新潟大学	教授	860,000
	1424	医学史と社会の対話－メディカル・ヒューマニティーズの社会への研究成果還元およびアウトリーチ活動の展開	スズキ アキヒト 鈴木 晃仁	慶應義塾大学	教授	1,000,000
	1425	AI, IoT などのテクノロジーと育児介護家事などの家庭内活動の未来	ナガセ ノブコ 永瀬 伸子	お茶の水女子大学	教授	1,000,000
	1426	遺伝子ドライブの倫理的・法的・社会的課題に関する環境衛生倫理的考察	フジキ アツシ 藤木 篤	公立大学法人 神戸市看護大学	准教授	900,000
	1427	電子計算機がもたらした科学技術計算の発展と社会の変容の研究－1960年代の建築・都市・気象・通信を中心に－	マエヤマ カズキ 前山 和喜	総合研究大学院大学	博士後期課程	710,000
	1428	科学の世紀を支えた科学普及活動——19世紀フランスにおけるルイ・フィギエの活動と現代における意義	マキノカナコ 槇野佳奈子	宇都宮大学	助教	800,000
	1429	グローバル化とデジタル化がもたらす国際課税ルールの変容にみる	モロトミ トオル 諸富 徹	京都大学大学院	教授	1,000,000

	市場、国家、市民社会の将来像に関する研究				
					50,000,000

1. 2 日立財団科学技術セミナー

令和元年度は、第15回日立財団科学技術セミナーとして、理化学研究所生命機能科学研究センター器官誘導研究チーム チームリーダー 辻 孝 氏を講師に招き、次世代再生医療研究の最前線から、「歯」や「毛髪」の再生技術をテーマに実施した。

第15回 日立財団科学技術セミナー

- ・題目 : みんなの再生医療の実現に向けて
～歯や毛髪再生のイノベーション
 - ・日時: 令和元年10月26日(土)13:30～15:00
 - ・場所: 日本工業倶楽部会館 大会堂
 - ・参加者: 100名
- 後日、開催報告を当財団ホームページに掲載した。

1. 3 日立スカラシップ事業

(1) 博士課程留学支援プログラム

平成29年度の招聘者4名を最終招聘とし、令和元年度は6名に対し、奨学給付金・学費・研修研究費の支給等の支援を行った。本事業は令和2年度で終了予定。

(2) リサーチサポートプログラム

科学技術の振興を通じた社会課題解決に資する、3分野(「エネルギー・環境」「都市・交通」「健康・医療」)において、基礎的・応用的研究を行う東南アジアの研究者(大学教員)を支援している。令和元年度は7名を支援した。本事業は令和2年度で終了予定。

1. 4 日立財団アジアイノベーションアワード

近年のアジア諸国の経済発展、科学技術の研究水準の向上を踏まえ、大学の人財育成を中心とした日本への招聘型の支援を改め、これまで30年余の学術交流、ネットワークも生かし、アジア地域の社会課題解決に資する科学技術イノベーションの研究及び研究開発の成果に対するアワードを新

設した。

令和元年度はアワード制度策定ワーキンググループを設置し、現地のニーズも踏まえ表彰の内容を検討し、令和2年度実施事業として下記制定した。

(1)SDGs達成に貢献する表彰対象研究

SDG2 - 飢餓をゼロに

SDG3 - すべての人に健康と福祉を

(2)対象国、対象とする大学・研究機関

カンボジア	カンボジア工科大学 カンボジア国立衛生研究所 王立農業大学 カンボジア農業研究開発所
インドネシア	バンドン工科大学 ボゴール農業大学 インドネシア科学院
ラオス	ラオス国立大学 ラオス保健科学大学
ミャンマー	マンダレー大学 ヤンゴン大学 イエジン農業大学
フィリピン	フィリピン大学ディリマン校 フィリピン大学ロスバニオス校 フィリピン大学マニラ校
ベトナム	カントー大学 ハノイ工科大学 ベトナム科学技術アカデミー

(3)表彰内容

- ・ 最優秀賞（最大 2件） 副賞 賞金 300万円／件
- ・ 優秀賞（最大 10件） 副賞 賞金 100万円／件

上記以外に、優秀賞に準ずるものとして、
奨励賞を贈呈することも可能とする。

奨励賞は、最大10件とし、1件あたりの賞金は50万円程度とする。

(4)選考委員

Monte Cassim	大学院大学至善館 学長
河野 泰之	京都大学 副学長
	東南アジア地域研究研究所 教授

佐藤 百合	独立行政法人日本貿易振興機構 アジア経済研究所 上席主任研究員
下山 勲	富山県立大学 学長
前田 章	国立研究開発法人 科学技術振興機構 未来創造研究開発推進部 運営統括
安井 真紀	シニア・ファイナンシャル・オフィサー International Finance Corporation (国際金融公社)

令和2年度4月1日からの募集開始にむけ、募集要項を取りまとめ、電子申請システムを構築するとともに、選定した大学・研究機関に対して、事業内容・応募要領の説明を行った。

2. 人づくり

2.1 理工系人財育成支援事業

近年、「科学離れ」「理科離れ」が叫ばれる中、ものづくりやイノベーションの基盤が揺らぐことが危惧され、日本の次世代を担う理工系人財の戦略的育成が課題となっている。そうした背景を受け、平成28年度より、日立財団の重点分野である「人づくり」の柱として、中長期的視野に立った「理工系人財育成支援事業」を立ち上げ、以下の活動を行っている。

(1) 「日立みらいイノベータープログラム」(小学生向け)

「イノベーション創出」を見据えた次世代の理工系人財を育てることを目的に、日立グループの社員を企業講師として小学校に派遣し、プロジェクト型の探求学習プログラム「日立みらいイノベータープログラム」を実施している。

令和元年度は、日立市立河原子小学校(茨城県)、柏市立松葉第一小学校(千葉県)、立川市立上砂川小学校(東京都)、戸田市立新曾北小学校(埼玉県)の4校にて実施した。またプログラム実施体制の強化を目的に、出張授業のアシスタントとして東京学芸大学の学生を起用、講師向けには講師研修ビデオを制作した。さらに、広報活動の強化を目的に、日立グループ向けにプロモーションビデオや、事業パンフレット(教育関係者向け、日立グループ向けの2種)を作成した。

(2) 理工系女子応援プロジェクト(中・高生向け)

女子中・高生の理系進路へのモチベーション喚起を目的として、女性研究者および女性技術者を活用した啓発活動を実施し、理工系女子育成、人財の多様性の実現とそれによるイノベーションの促進に貢献している。

令和元年度は理工系女性のロールモデル、同志社大学 生命医科学部 飛龍志津子教授の対談取材に加えて、内閣府の理工チャレンジ(リコチャレ)に賛同したワークショップ「生き物から学ぶ～コウモリの声“超音波”を分析して音の物理を学ぼう!」を、飛龍教授の研究室で実施した。財団サイトの中の理工系女子応援

サイト「わたしのあした」にて対談とワークショップの実施報告を公開した。

2.2 大好き いばらき作文コンクール

茨城県のチャレンジいばらき県民運動と共催で、茨城県の小学校、中学校を対象とした作文コンクールを実施している。

令和元年度は、「私の住む町」をテーマに、豊かさや暮らしやすさ、伝統文化のすばらしさと、科学技術を使った町づくりや、理想の町について募集した。

茨城県内から 12,435 点の応募があり、「日立財団 小平記念賞」と、「日立財団 奨励賞」を含む 45 の作品が入賞した。

2.3 日立市少年少女スポーツ育成大会事業

スポーツを通して少年少女の健全な心身の育成と、友情、連帯感を培い、犯罪や非行のない明るい社会を作ることなどを目的として、昭和53年から日立市体育協会、日立市スポーツ少年団と共催で本事業を実施している。競技種目は軟式野球、バレーボール、ミニバスケットボール、サッカー、バドミントンの5種目となっている。

令和元年度は、7月27日～28日にサッカー、バレーボール、バドミントン、8月3日～4日に軟式野球、ミニバスケットボールを実施した。少子化の影響で参加者が減少しているため、今回は隣接する市外の13チームが新たに参加し、5種目に92チーム、1,198名が参加した。

3. 多文化共生社会の構築

3.1 「多文化共生社会の構築」シンポジウム

性別、国籍、年齢、障がいの有無、性的思考など属性の差異を超え、多様な立場や価値観を認め合って、各々が生き生きと、一体となって生活する社会を「多文化共生社会」と定義し、一般市民に向けて意識改革を促す啓発事業を実施している。令和元年度は、東京都千代田区と茨城県日立市の2カ所でシンポジウムを実施した。

(1) 東京都開催

日本人のメンタリティーや「おもてなし」の精神、外国人との共生について討論し、高校生、大学生を含む120名が参加した。

- ・日時 : 令和元年11月4日(月・祝) 14:00～16:30
- ・テーマ: 「日本社会における多文化共生社会実現の壁 ～心のグローバル化～」
- ・対象者 : 一般市民
- ・講演者 : 基調講演 サヘル・ローズ 氏(女優) 「夢をつなぐ 心をつなぐ」
パネリスト 毛受 敏浩 氏(日本国際交流センター 執行理事)
アンジェロ・イシ氏(武蔵大学社会学部メディア社会学科教授)
唐沢 穰 氏 (名古屋大学 情報学研究科 教授)
モデレーター 山脇絵里子氏 (共同通信社 社会部 副部長)

(2) 茨城県開催

日立市、日立市教育委員会、公益財団法人 茨城県国際交流協会の後援のもと、4 言語の同時通訳を入れ、日本人のメンタリティーからみた「心の壁」について討論し茨城県内から320名が参加した。

- ・日時 : 令和2年1月26日(日)13:30~16:00
- ・テーマ : 「おもてなしの心を超えて」
- ・対象者 : 一般市民
- ・登壇者 : 基調講演 サヘル・ローズ 氏(女優)「夢をつなぐ 心をつなぐ」
 講演者 アンジェロ・イシ氏(武蔵大学社会学部メディア社会学科教授)
 唐沢 穰 氏 (名古屋大学 情報学研究科 教授)
 鈴木 哲也 氏 (公益財団法人 茨城県国際交流協会 理事長)

4. 処務の概要

(1) 役員等に関する事項

(敬称略・五十音順) 令和2年3月31日現在

役 職	氏 名	手 当	現 職
理事長	石塚 達郎	無 給	(株)日立製作所 アドバイザー
理事	大島 まり	有 給	東京大学大学院情報学環/ 東京大学生産技術研究所 教授
〃	小山田 隆	〃	(株) 三菱UFJ銀行 特別顧問
〃	高萩 光紀	〃	JXTG ホールディングス(株) 名誉顧問
〃	谷口 武俊	〃	東京大学 公共政策大学院 客員教授 東京大学名誉教授・工学博士
〃	道垣内 正人	〃	早稲田大学 法科大学院 教授
〃	波多野 睦子	〃	東京工業大学 工学院 電気電子系 教授
〃	二宮 雅也	無 給	損害保険ジャパン日本興亜(株) 取締役会長
常務理事	床波 忠明	有 給	(公財)日立財団
監 事	内田 晴康	有 給	TMI 総合法律事務所 パートナー 弁護士
〃	中嶋 康弘	無 給	PwC あらた有限責任監査法人 名古屋事務所長 パートナー 公認会計士
評議員	荒井 勝	有 給	NPO法人日本サステナブル投資フォーラム 会長
〃	河野 通長	〃	(株) ミチクリエイティブシティデザイナーズ 代表取締役社長
	佐藤 百合	〃	独立行政法人 日本貿易振興機構 アジア経済研究所 上席主任研究員

〃	白石 隆	〃	公立大学法人 熊本県立大学 理事長
〃	鈴木 教洋	無 給	(株)日立製作所 執行役常務
〃	谷本 寛治	有 給	早稲田大学 商学学術院 商学部 教授
〃	田宮 直彦	無 給	日立金属(株) 執行役常務
〃	安井 至	有 給	(一財) 持続性推進機構 理事長 環境人材育成コンソーシアム 代表幹事

(2) 職員に関する事項

令和2年3月31日現在

区 分	職 務	氏 名	就任年月日	手 当
東京 事務所	事務局長	山口 淳嗣	H30. 4. 1	有 給
	プログラムオフィサー	寺村 奈津季	H11. 2. 21	〃
	〃	渋谷 紀子	H14. 10. 11	〃
	〃	小野 珠実	H26. 12. 29	〃
	プログラムコーディネーター	大沼 七穂	R01. 9. 9	〃
	〃	小川 夏希	R02. 3. 2	〃
	グループリーダー	梶山 隆弘	H30. 11. 1	〃

(3) 役員会に関する事項

理 事 会

開 催 年 月 日	議 事 事 項	議事の結果
R01. 4. 20	評議員会招集の件	原案承認
R01. 6. 3	平成30年度事業報告及び決算報告の件 評議員会招集の件 理事及び監事候補者選任の件 日立財団アジアイノベーションアワード選考委員会 設置の件 報告事項:理事長及び常務理事の職務状況報告	原案承認
R01. 6. 3	理事長および常務理事選定の件	原案承認
R02. 1. 20	評議員会招集の件	原案承認
R02. 2. 19	令和2年度事業計画及び収支予算の件 公益目的事業変更申請の件 日立財団アジアイノベーションアワード規程承認の 件 報告事項:理事長及び常務理事の職務状況報告	原案承認

評 議 員 会

開催年月日	議 事 事 項	議事の結果
R01. 6. 3	理事及び監事選任の件 評議員選任の件 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程改定の件 議事録の署名捺印者選出の件	原案承認
R01. 6. 18	平成30年度事業報告及び決算報告の件	原案承認
R02. 2. 19	平成31年度事業計画及び収支予算の件 公益目的事業変更申請の件	原案承認

(4) 認可・許可及び承認に関する事項

無

(5) 契約に関する事項

無

(6) 寄附金に関する事項

寄 附 の 目 的	寄 附 者	寄 附 金 額
令和元年度運営資金	(株)日立ハイテクノロジーズ、日立金属(株)、(株)日立システムズ、日立化成(株)、日立キャピタル(株)、(株)日立物流、(株)日立ソリューションズ、(株)三菱日立パワーシステムズ、(株)日立ビルシステム、日立建機(株)他計38社・日立グループカフェテリアプラン	15,724,900 円

(7) 主務官庁の指示に関する事項

無

(8) 附属明細書

事業における重要な事項は平成30年度事業報告書に記載されており、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第三十四条第三項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は特に無い。

以上